

# 鉛の評価書骨子（案）

## 要約

### 自ら評価実施の背景

- I. 物理、化学的特性
- II. 鉛の生産と用途
- III. 日本の現行規制等
- IV. 環境中の分布、動態
  1. 大気中の鉛
  2. 土壌・粉塵中の鉛
  3. 水域・底質中の鉛
- V. ヒトにおける曝露
  1. 吸入曝露
  2. 経口曝露
    - (1) 土壌・粉塵からの曝露
    - (2) 食品からの曝露
    - (3) 飲料水からの曝露
    - (4) 経口曝露量の推定
- VI. 体内動態
  1. 吸収
  2. 分布
  3. 代謝
  4. 排泄
  5. 生物学的半減期
- VII. ヒトにおける有害性評価
  1. 急性影響
  2. 慢性影響
    - (1) 神経系への影響
      - ①小児への影響
        - a. 神経行動学的発達への影響
        - b. 末梢神経機能への影響
      - ②成人への影響
        - a. 中枢神経機能への影響
        - b. 末梢神経機能への影響
    - (2) 心血管系への影響
    - (3) 血液・造血系への影響
    - (4) 腎臓への影響
    - (5) 内分泌系・免疫系への影響
    - (6) 生殖への影響
      - ①男性における生殖への影響
      - ②女性における生殖・発達への影響
    - (7) 発がん性

VIII. 実験動物等における有害影響

1. 発がん
2. 心理行動学的所見その他
3. 内分泌および生殖等への影響

IX. これまでの国際機関等での評価

1. IARC
2. JECFA
3. WHO 飲料水水質ガイドライン
4. 米国環境保護庁 (US EPA)
5. ACGIH

X. 食品健康影響評価

1. 有害性の確認
2. 用量-反応評価
  - (1) 疫学調査
  - (2) 耐容摂取量の設定
3. ハイリスクグループ

XI. 結論

XII. まとめ及び今後の課題